

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 1 7

NO 1 7

2 0 1 6 ・ 4 ・ 3 0

1 チャンスと挑戦：農村地域における難民の人口移動

ー地方自治体、園芸連盟など各団体連携して受け入れをー

チャンスと挑戦の間で：「農村地域における人口移動が、どのように変化しているのか」のテーマで、連邦食料・農業大臣シュミットが、連邦政府の難民コーディネーター及び連邦首相府官房長ペーター アルトマイヤーそして地方自治体と雇用主代表者と、4月26日に連邦省で議論した。この会合は、一連の「連邦食料・農業省における対話」の一部である。

連邦省の中心的課題の1つは、農村地域の発展を促進することである。農村地域は、活力がありそして魅力的であるべきである。現在問題となっている難民の流入に際して、農村地域は新しい挑戦の前に立っている。連邦首相府官房長ペーター アルトマイヤー並びに園芸連盟会長ベルトラム フライシュアー、ニーダーザクセン州都市ー地方自治体連盟会長 Dr.マルコ トリップスと連邦農業大臣シュミットが、話し合った。つまり、人口移動は農村地域のために、1つのチャンスをもたらしている。

連邦官房長ペーター アルトマイヤーは、多くのボランティア組織、連盟、教会が難民への視点でもって、参画していることを賞賛した。彼は特に多くの団体の活動について、適切に統合化される可能性を指摘した。その際、難民を救済し、彼らの才能を見出すことが重要である。地方自治体連盟会長トリップスは、分散している宿泊場所を、早急に統合することが有効であると強調した。これが可能となれば、国民と難民の間の絆を、早急に発展させられる。一方、これは自然に進むのではなく、地方自治体にとって著しい支出と経費増もまた生ずる。

この統合を早急に促進させるために、可能な限り柔軟性をもって試行することに賛成する。いわゆる緑の職業（訳注・農業に関連する職業）における可能性についても、園芸連盟会長 フライシャーが報告した。多くの経営は、難民を雇用するために準備すべきである。しかし、多くはそのノウハウが不足している。そのため、連盟はこのテーマに関心をもつ経営に助言を与える支援をしている。

連邦大臣シュミットは、100 万人以上の人口流入が我々の社会、町々そして村々に、立ち寄ることを確認している。”このことを我々が適切になし得るとき、我々の全土にそして特に農村地域のために、その流入が巨大な利益となることを意味する。我々がこのことに不適切に対応したとき、平行社会（訳注・難民と受入社会との文化、アイデンティティが融合せずに、2つの社会が生ずること）において締め出しが生じ、社会の針路を変えるという危険が生まれる。”

このことに関連して連邦大臣シュミットは、農村地域の人口移動と亡命者の統合のために、連邦閣議に今後報告すると述べた。その際、難民流入を必然的な挑戦とする一方、農村地域の展望とチャンスも生れる。これは特に農村での人口進展のための、重要な観点である。

2 食料と農業における生物多様性に関する世界現況報告

持続的、効率的な農業、林業、漁業を確保するために、食料と農業に関する生物多様性は、どのような貢献を果たすのか？そして今日ヨーロッパと中央アジアにおけるこの多様性の現状は、どうなっているのか？この課題は、食料と農業に関する遺伝子資源委員会（CGRFA）の3日間にわたる地域会議の中心点に据えられている。これは、連邦食料・農業省の招きで、2016年4月18日から20日までボンで開催された。

17カ国からの専門家が、ヨーロッパと中央アジア地域の53カ国の領域において議論した。生物多様性維持のための世界的な挑戦は何か？政治または経済が、どのような支援を果たすことができるのか？そしてこの世界現況報告に対する、どのような作業が継続されるべきなのか？これは、幾つかの中心的なテーマであった。

目 的：最初の広範な生物多様性に関する世界現況報告

食料・農業に関するこの世界現況報告は、食料と農業の遺伝子資源のための世界的な現状調査で、構成されている。生態系機能と連鎖的な生物多様性のための、農業、林業、漁業への貢献に係る概括的な問題もまた含んでいる。

背 景：食料と農業に関する遺伝子資源委員会（CGRFA）

この組織は 1983 年に設立され、そして現在 173 の加盟国を有している。これは、有用植物、有用動物、林業植物の遺伝子資源、水棲動物の遺伝子資源を管轄している。またこの組織にとっては、遺伝子資源と公正な長所把握のための理解、バイオテクノロジー、遺伝子資源の確保と利用、またはモニタリングと指標のための世界的な合意手法といった、連鎖した問題もまた増加している。

世界現況報告は、CGRFA の作業の中で中心的な役割を演じている。各州の報告を基礎に作成されたこの現況報告は、広範な取組分野の国際的合意に関する基礎を形成する。それは、いわゆる「世界アクションプラン」である。食料と農業の目的における生物多様性を実現し、そしてそれを活用したい者、その中でこの多様性の個々の構成要素を、調整するといったような広範な理解を、必要とする。

そのため、各州の報告の中で農林業、漁業において直接利用する植物や動物だけでなく、それを取り囲んでいる基本的な生態系もまた重要である（土中の土壌生物と微生物も含めて）。新しい世界現況報告は、個々の分野に関して既に提出済みの世界現況報告に関して、包括的なテーマを取り上げている。世界報告は、既に植物、動物そして林業上の遺伝子資源並びに水棲遺伝子資源を、提出している。新しい報告は、農林業、漁業の持続性とストレス耐性並びに収入確保と、食料生産の観点で生物多様性が、どのように貢献を果たすか研究している。

この世界現況報告の目的は、生物多様性のための「国連一 10 年」に役立つため、農林、漁業の必要性和効率性を、この分野において評価することである。

これは、FAO のさらなるイニシアチブ確立のための基礎を形成する。この報告のための議論は、2017 年 1 月の CGRFA の来たるべき会議で計画される。

2018年には、その結果が公表される。連邦食料・農業省は、アフリカ、南米そしてアジアにおいて、地域的な専門家の助言の導入と、世界現況報告作成のための、数年間のプロセスを支援する。そしてこのプロジェクトの領域において、財政上総額 650,000 ユーロ（約 8,450 億円）を充当する。

3 食料の浪費は最も長い闘いが必要—各州と共同の努力を強化

消費者保護大臣会議で連邦と州が、特に食料の浪費を減らすために、「国内での資源優先活動センター」を求めた。さらに連邦食料・農業大臣シュミットは説明した：“我々は、食料の浪費に対して最も長い闘いを予告し、そして既に広範に取り組んでいる。私の省では、既に食品ゴミと食料の無駄の減少に、力を入れている。これには、国内組織の強化が挙げられる。各州と経済界の不可欠な合意が進行中である。

私の目標は、2030年までに食料の無駄を、1人当たり半減化することである。そのため、私は成果あるイニシアチブ「ゴミ容器に捨てるには良すぎる」で、食料の無駄に反対する国内戦略を、さらに発展させる。防止可能な無駄の大きな部分は、個人の家庭から出てくる。我々はこの重要なテーマを、さらに消費者に敏感に感じ取れるようにする。我々の調査は示している：若い人々は、食料を頻繁にそして軽はずみに、古いとして捨てている。そのため私は、各州に対して要請を続けている。食料教育をカリキュラムの中にも含めること。ここで各州は重要な貢献を、果たしている：食料に対するより高い価値評価と食料ゴミの減少化”

2016・5・4 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
